教育みかわ

第140号

副会長挨拶
三河女性管理職者会会長挨拶
総務委員会
研究大会・研修会等の報告
今後の研究大会・研修会等のご案内
三教研公式ウェブサイトのご案内

三河教育研究会

令和5年9月30日

一枚のポートレートとともに

三河教育研究会　副会長　石川雅春

決してふざけているわけではありません。この顔写真。本来は履歴書で使用するような正面を向いた顔写真とすべきでしょう。

この写真は不登校傾向のAさんが撮ってくれたもの。Aさんの唯一の趣味が高価な一眼レフでの写真撮影。用あって校長室に来室することになり、好機とばかりに手元の簡易カメラを渡し、あれこれとポーズをとる私に、Aさんは「あっ、そこっ。」と一言放ち、カシャと迷わずシャッターを切りました。

下を向いて少し微笑んでいる顔が、私の内面を映し出しているようで、お気に入りの一枚となりました。

白髪の増えたその顔と対話をする中で、若き頃のことがこみ上げ、あの時自分はどんな顔をしていたのだろうと想像したことがあります。

初任時、たった一つの校務分掌であった焼却炉担当として、灰出し作業をした時の灰と煤まみれの顔。準備不足の授業で生徒からの質問にぎこちなく説明をした時の顔。悪態をついた生徒と対峙し、黒い目玉を決して動かさなかった時の顔。酒に酔った保護者にいきなり襟首をつかまれた時の顔……。

自分の顔を自分の目で見ることはできませんが、純粋な日々はくっきりと私のカメラに保存されている、そんなことをこの顔写真が導いてくれました。

失敗ばかりでしたが、よく辞めずにここまでこられたものだと思い返してみれば、育てていただいた顔、顔、顔のなんと多いことか。特に三教研では、勇気を出して夏季研で質問をしたり、発表の場をいただいたり、指導者的な立場にさせていただいたりする中で、同じ釜の飯を食べているような絆が深まっていくのを感じました。人生邂逅の大切な場でした。

司馬遼太郎は『覇王の家』の中で、質朴で困苦に耐え、情義を重んずる三河気質やその風土が徳川三百年と日本人の精神の核となる気質を築いたと独自の見解を示しています。今や空前の家康ブームです。この三河が課題多き教育界でも光芒を放っていくことは歴史が証明しています。三河で教育に携わることを幸せに感じ、教職を「職場」というよりも「詩境」と捉えていきたいものです。

静かに微笑む自分と、今日も自己内対話を繰り広げます。

ケ・セラ・セラ

三河女性管理職者会　会長　上田富喜子

三十年ぶりに新任の時に勤めた校区に赴任した五月の資源回収での出来事です。「先生、平中に見えましたよね。私のこと覚えていますか。」満面の笑みで保護者と思われる方が近づいてきました。どなたなのかまったく見当もつきませんでしたが、話を聞いてみますと、当初の教え子ということが分かりました。何でも、彼女が中学校に入学したときに、担任の先生から学級代表を頼まれたそうです。その学校は、三校の小学校から入学してくる学年九クラスの大規模校なのですが、彼女の出身校は、その中でも一番小さい学校でした。だから中学校への不安感はとても強かったそうです。まずは静かに様子を見ていこうと思っていた矢先、いきなり学級代表になれと言われ、本当に泣き出しそうなほどだった。そんな時に、「何とかなるよ。大丈夫、大丈夫。ケ・セラ・セラだよ。」と、言ってくれたということでした。

私は、その話を聞き、教員になりたての私が言った言葉を今も覚えていることに驚きを隠せませんでした。今回は、たまたまうれしい話でしたが、逆の話もたくさんあるのではと心配になりました。教師の使う言葉は、子供たちを奮い立たせることもできるし、逆に、やる気や自信を失わせることもあると改めて実感しました。

私が昔恩師に教えていただいた「ケ・セラ・セラ」には、「明日は明日の風が吹く、なんとかなるさ。」という風任せではなく、「人生は自分次第だからどうにでもしていける。あなたの歩む道は、それしかないわけないでしょ。」という前向きな気持ちが含まれています。進む道は一つではありません。たとえ、大きなピンチに出会っても、なんとかなるといつでも思いたいです。

コロナの三年間に子供たちを取り巻く環境は激変しました。将来に漠然とした不安をもち、希望を見出せない子も少なくないように感じています。しかし、私たち教師は、学校の中で一番子供たちの近くにいて、長い時間を一緒に過ごすことができます。「ケ・セラ・セラ」と伝えることができます。これからも、子供の今を丸ごと受け止め、子供たちに寄り添い、最高の応援団として力を尽くしていきたいと思っています。

教師の主体性と創造性をもった授業実践

―令和五年度　研究大会・夏季研修会を終えて―

総務委員会

総務委員会では、五月十七日の定期総会以降、役員会・常任委員会を開催し、常任委員会の活動計画や各部会・各委員会の夏季研修会などの充実について、協議を重ねてきました。

本年度は夏期休業中に十七の研究大会・研修会が開かれました。子どもが主体的に学ぶことのできる授業を目指し、授業改善のヒントを得ようと活発な議論が展開されました。秋以降には八つの研究大会が計画されています。研究大会・研修会で提案された指導案は、三教研公式ウェブサイトに掲載していきます。

また、授業力養成講座Ⅰを、西三河は八月二十四日に安城市教育センターにて、東三河は八月二十三日に豊川市音羽庁舎にて開催しました。いずれも多くの受講者が集い、熱心に研修が進められました。

研究大会や研修会、授業力養成講座での学びが、これからの三河教育の推進に生かされることを期待します。

なお、研究大会・研修会の運営に際し、関係市町村教育委員会、関係支部部会・委員会・関係機関の方々にご尽力いただきましたことに感謝申し上げます。

研究大会・研修会等の報告

国語

言葉に対する見方・考え方を広げ、学び合い、深め合う授業

令和五年度　国語部会夏季研修会
期　日　八月四日（金）
場　所　新城文化会館
参加者　三百六十六名
講演会　「わたしの『せかいいち うつくしいぼくの村』」
講　師　作家　小林　豊氏

各分科会では、研究テーマ「言葉に対する見方・考え方を広げ、学び合い、深め合う授業」に沿った実践についての提案がなされました。

協議会では、提案者の確かな実践をもとに、活発な議論が展開されました。参加者からは「今後の授業作りの参考にしたい。」などと前向きなご意見を数多くいただきました。

講演会では、小林豊氏をお招きしました。絵本の執筆の際に、現地の匂いや音までも伝わるようにされていることなどをお話いただき、作品の背景や込められた思いを想像する大切さを学びました。

最後になりましたが、本研修会を支えてくださった新城・北設楽地区の先生方、提案・助言・司会の先生方に心より感謝申し上げます。

講演される小林豊氏

「書くこと」の価値と評価

岡崎・福岡中　太田　秀美

中学校「書くこと」の分科会に参加しました。物語や小説を読む力と書く力を連動させて相互的に高める実践発表でした。手だてとしてGoogle「classroom」のコメント機能を活用し、生徒間の意見交流を行う場を設けていました。他の意見に共感する反応が瞬時に展開され、読みを広げるための有効性を感じました。内容を読み深めたからこそ書くことができるという視点において、作者の描く世界観から逸脱することなく、言葉を吟味してエピローグを書く様子が見られました。

協議会では、書くことの評価について、参加された先生方から多くのご意見が出されました。授業者の明確なねらいの重要性を感じました。「読む力と書く力は相互に高められる」という今回の学びを、今後の授業作りに生かしていきたいです。

書写

令和五年度　書写実技講習会
期　日　七月二十八日（金）
場　所　むらさきかん（岡崎）
参加者　四十五名
演　題　「旧字体と新字体」
講演・実技講師　岐阜女子大学教授　中根　海童　先生

知れば知るほど、奥が深い書の世界

豊田・市木小　那須　千浩

「筆は世界最高の筆記具」中根海童先生のお言葉に、今まで使ってきた筆や書に対して、新たな視点をいただいた気がしました。筆は、とてもしなやかな動きをします。穂の弾力やねじれによって文字を豊かに表現できる、まさに世界最高の筆記具です。そんな筆という道具の動きの特徴や使い方、すばらしさを自分自身が理解して伝えられたら、子どもたちの書に対する姿勢もおのずと変わってくるのではないかと感じました。また、日本における漢字の起源や変遷もご教授いただき、文字の奥深さに触れることができました。

今回学んだことを生かし、子どもたちが文字や書にさらに興味をもつことができるようにしていきたいと思います。

書写実技に取り組む様子

社　会

社会的な見方や考え方を働かせ、仲間とともによりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業（二年次）

令和五年度　愛知県社会科教育研究大会
期　日　八月一日（火）
場　所　岡崎市民会館
参加者　三百四十名
講演会　「社会的事象の見方・考え方を働かせ、問題解決的な学習を通して資質・能力を育成する」
講　師　国立教育政策研究所
教育課程調査官
小倉　勝登　氏
分科会　小学校　三分科会
中学校　四分科会

三河と尾張によって隔年で開催されている愛知県社会科教育研究大会が、八月一日に岡崎市民会館で開催されました。当日は、三河地区全域ならびに尾張地区からも多くの先生方を迎え、たいへん盛会となりました。

講演会では、文部科学省の教科調査官の小倉勝登氏にお話をいただきました。先生からは、子どもにとって役に立つ、楽しい社会科学習を実現するために、学習指導要領を具現化する必要性についてお話をしていただきました。

「学習指導要領を読むと、その単元で働かせる社会的事象の見方・考え方がわかり、問いを設定して、問題解決的な学習過程を充実させることができる。」という発想は私たちが社会科の授業を構想するうえで、大切にしていかなくてはならないものであると実感しました。

講演会の後は七つの分科会に分かれ、各地区の実践が提案されました。小倉氏も参観され、質疑・応答が活発になされていることに感心しておられました。

わたしたち社会科部科会は、今回の愛知県社会科教育研究大会の研究成果と課題を踏まえ、今後も研究に取り組んで参ります。

最後に、来賓の先生方をはじめ分科会の内容を深めていただいた助言者の先生方、並びに関係諸機関の先生方に深く感謝申し上げます。

講演される小倉氏

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

よりよい社会づくりへの参画をめざす

安城・梨の里小　長谷　昇知

公民学習は、直接的に児童の生活と結びついているはずなのに、自分事として捉えにくいところがあります。今回の実践では、学級内の最も多くの児童が訪れたことのある図書館と商業施設から成る複合施設アンフォーレを取り上げました。これが、社会的事象を身近なこととして捉えるきっかけとなりました。どうしてアンフォーレが年間百万人も訪れるようになったのかという問題を、児童が解決しようとする姿は、小倉氏の講演の内容とも合致しており、社会参画を実現しようとする姿であったと感じました。

算数数学

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた算数・数学教育の実践

令和五年度　算数数学部会夏季研修会
期　日　八月二十二日（火）
場　所　豊田市福祉センター
参加者　三百九十一名
講演会　「『見方・考え方』を働かせる算数・数学授業の実践について」
講　師　国立教育政策研究所
教育課程調査官
水谷　尚人　氏

令和五年度算数数学部会夏季研修会を、豊田市福祉センターにて開催しました。三河各地から、多くの先生方にご参加いただきました。

分科会では、小中学校合わせて十二の提案を六つの分科会に分かれて協議しました。「数学的な見方・考え方」「協働的な学び」「教材の工夫」などをキーワードとした各地区の実践が提案され、愛知教育大学の先生方から、それぞれの実践に対してご助言をいただき、大変充実した研修の機会となりました。

分科会後の講演会では、国立教育政策研究所の水谷尚人氏より、「『見方・考え方』を働かせる算数・数学授業の実践について」という演題でご講演をいただきました。見方・考え方を働かせて問題を解決することができる子どもたちを育てるために、ＩＣＴ機器を活用したり、言語活動を充実させたりしながら、子どもたちの自ら学ぼうとする気持ちを高めることの大切さについて、全国学力・学習状況調査の結果や実践事例を踏まえながらご教授いただきました。未来を生きる子どもたちが未知の問題に直面したとき、それを解決できるように育てたいという思いを強くすることができました。

講演される水谷氏

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

参加者の声（研修会後アンケートより）

▽分科会で、単元を見通した課題やテーマの設定をどのような視点で考えていくとよいのかを学ぶことができた。この後、学校で指導案を検討する機会があるので、同僚にも今回学んだことを伝えていき、よい単元の構想づくりに尽力したい。

▽水谷氏の講演で、「見方・考え方」と「思考力・判断力・表現力」とは別であると教えていただいた。子どもに身につけさせたい力を明確にして、授業実践を行っていきたい。

▽この研修会での学びの濃さをもっと多くの先生に知ってもらい、参加してもらうことが、各地区の算数・数学教育の発展につながると思う。

理科

自然事象を主体的、協働的に追究し、豊かな心と創造力を培う理科学習

令和五年度　愛知県小中学校理科教育研究発表会
期　日　八月四日（金）
場　所　蒲郡市民会館
参加者　二百七十二名
講演会　「子どもの目が輝く理科授業を目指して～科学への興味関心を高める様々な実験の工夫～」
講　師　豊橋エコサイエンスクラブ　代表　伊丹　和彦氏
分科会　小学校下学年　上学年　中学校

講演会では、伊丹和彦氏をお招きし、竜巻発生装置や巨大空気砲など、様々な道具を使った、授業に役立つ実験を紹介していただきました。「伝声管」の実験では、スピーカーから聞こえてくる音が、チューブに伝わってくる様子を会場にいる参加者の先生方にも、実際に体験をしていただきました。また、参加者に一人一つの教材を配布し、分光シートで白熱球やLEDライトの光を分解する実験などを行いました。教師のちょっとした教材の工夫や実験中の声かけなどの教師支援で、子どもの興味関心を高めることができることを教えていただきました。参加者からは、「講演会にずっと引き込まれていた。」「二学期からすぐに試してみたい。」という声がありました。

講演で実験を紹介される伊丹氏と助手の花井先生

分科会では、小学校下学年、小学校上学年、中学校の部会において、それぞれ二地区ずつの提案をもとに活発な協議が行われました。参加者からは「子どもが解決したい問題の作り方や、授業での手立てのヒントをもらえたので、実践に生かしていきたい。」など、意欲的なご意見をいただくことができました。

理科という強化を生かして

豊田・中山小　湯澤　貴司

理科という教科は、教材との出合わせ方一つで、子どもの意欲や興味を引き出すことができます。誰もが知識や経験を活用し、他者と関わり合って問題を解決しようとします。本研究を通して、問題を解決するために、他者と検討したり、科学的な視点で考えたりしながら追究を進め、多面的な視点で事象を考える子どもの姿を引き出すことができたと思います。今回、発表の機会をいただいたことで、改めて、子どもたちの真剣な姿に出会えたことに感謝します。今後も、子どもの目の輝きを引き出すことのできる理科授業を展開していきます。

保健体育

運動する楽しさや喜びを味わい、自ら学びを深めていく体育学習（二年次）

令和五年度　保健体育部会夏季研修会
期　日　八月四日（金）
場　所　岡崎市民会館
参加者　三百三名
講演会　「コトバコーチング　考え、自覚する個の育成」
講　師　iMA代表　今久保隆博氏

岡崎市教育長の安藤直哉様、愛知教育文化振興会の水藤彰啓様を来賓としてお迎えし、全体会を行いました。部会長や来賓の挨拶から、子ども一人一人に目を向けた学びの大切さを再確認しました。

講演会では、今久保隆博氏より、ご自身の経験を交えながら、コーチングの「コトバ」についてお話をいただきました。自ら考え、自分を律し、判断・行動できる人を育成するためには、我々指導者は相手のことを最大限に考えた声かけをする必要があることを学びました。

研究協議会においては、高嶺小の中野先生から、仲間と豊かに関わり合いながら運動する意欲を高めるマット運動の実践が、清田小の間瀬先生から、仲間とともに課題を見つけ、解決しながら学びを深めていく陸上運動の実践が提案されました。参加者は自分の実践と照らし合わせながら、熱心な討議を行いました。助言者の先生からは、子どもが主体的に学ぶ授業づくりのヒントをご示唆いただきました。

夏季研修会の開催にあたり、準備協力いただきました岡崎および各地区の先生方、岡崎市民会館の方々に深く感謝申し上げます。

保健体育部夏季研修会に参加して

岡崎・城北中　伊藤　禎浩

今久保隆博氏のご講演から、言葉のもつ力と、フェアな言葉を意識した指導の重要性について考えることができました。「自分の発している言葉は、十二才にも二十四才にも同じことを言えるか。」というお話から、自分自身の生徒にかけてきた言葉を思い出し大変反省をしました。また、タイミングよく必要な言葉だけを伝えることによって、自分から考えることができる子どもの育成につながることがわかり、コトバコーチングを実践していきたいと思いました。分科会では、走り高跳びの授業実践を協議しました。跳躍の高さや身長などを使い得点化することで、夢中になって自らの課題解決を目指す生徒の姿があり、大変興味深いものでした。助言者からは、個の運動レベルに合った経験をさせる必要があることや、課題設定の仕方について学ぶことができました。今後の授業実践に生かし、よりよい授業を目指していきたいと思います。

講演される今久保氏

技術・家庭

よりよい生活の実現と持続可能な社会の構築に向け、自ら工夫し創造する生徒の育成

令和五年度　技術・家庭部会夏季研修会
期　日　八月四日（金）
場　所　幸田町民会館
参加者　二百三十一名（小・中合同）
講　師　愛知教育大学
　名誉教授　太田　弘一　先生
　教　授　青木香保里　先生

はじめに専門班が、研究主題に関して、研究のねらいや手だての確認などを行いました。問題解決的な学習過程における問い直しや振り返り活動の充実について、理解を深める場としました。

その後、技術分野と家庭分野に分かれて分科会を行いました。技術分野では、豊橋地区、碧南地区、みよし地区に提案していただきました。いずれの地区も地域の特色を生かした題材を用いて、ＳＤＧｓを意識した問い直しを効果的に取り入れた実践を発表しました。また、情報交換の場を設定し、地区や経験年数を配慮したグループに分かれ、授業の悩みを共有し、解決策を話し合いました。中学校家庭分野では、豊橋地区、岡崎地区、みよし地区、小学校家庭科では、刈谷地区とみよし地区に提案していただきました。いずれの地区も、子どもの生活を軸とした題材構想や教材・教具の工夫から研究の成果が見られました。

指導・助言では、愛知教育大学の太田弘一先生、青木香保里先生から、基礎・基本を押さえた上で先端技術にふれることや、自然環境や時代の変化に合わせて生活の課題を設定することなど、多くのご教示をいただきました。

分科会での提案の様子

夏季研修会で学んだこと

みよし・三好中　寺野　美紀

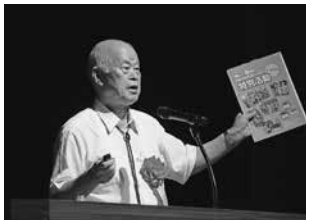
豊橋地区（中学校・家庭）の実践では、グループのメンバーを学級担任と相談して決めることで、生徒同士の話し合いがより活発になるようにしていました。また、岡崎地区の実践では、チームを組み、普段のグループとは違うメンバーでの学び合いの形がありました。どちらの実践からも、教師が教えたいことを優先するのではなく、生徒たちの思いや考えを大切にした問い直しにするべきだと学びました。来年度の発表に向けて、研究を進めている実践でも、生徒の追究と興味・関心の中からの問い直しとなるような手だてを考え、生徒が主体的に学びに向かい続けることができる授業を展開していきたいと思いました。

特別活動

多様な人々と協働し、未来に向け新たな価値を生み出していく力を育む特別活動～主体的・協働的に取り組む集団活動を通して～（一年次）

令和五年度　特別活動部会夏季研修会
期　日　八月四日（金）
場　所　パティオ池鯉鮒（知立）
参加者　二百七名
講演会　「よりよい人間関係や豊かな生活をつくる特別活動」～『望ましい集団生活』を生かす学校・教師～
講　師　元文部科学省
　初等中等教育局視学官
　宮川　八岐　氏

講演会では、宮川八岐氏よりお話をいただきました。学級活動のうち、自治的能力の育成を担う学級会について、実践例を挙げながらその意義について講演してくださいました。「今回の資料を見返して、年度初めの特別活動や係活動の充実に努めます。」「特別活動、特に学級会は、教師の意図を明確にして実践していくことが大切だと学びました。」など、学級会に生かしたいという声が集まりました。


講演される宮川氏

講演会後には、小中学校ごとに分科会を開催しました。四名の先生から提案をしていただき、活発な協議が行われました。参加された先生からは「手だてを自分なりにアレンジして、実施した成果から同僚に教える会を開きたいです。」「朝の会において、分科会で紹介されたコンセンサスゲームやコグトレを活用し、話し合いスキルを高めるところから始めたいです。」など、これからの実践に生かしたいといった内容の感想が多数寄せられました。本会で学んだことを生かし、子どもの成長につなげてほしいと思います。

本研修会を開催するにあたり、知立地区特別活動部の先生方に、たくさんの協力をしていただき深く感謝申し上げます。

子どもに寄り添う特別活動

岡崎・男川小　鈴木　俊宏

今回、自分の実践を発表する機会をいただきました。発表に向けて実践を振り返る中で、子どもたちがかかわり合いながら主体的に学級活動に参加できるようにするためにはどうしたらいいのかについて、改めて考えることができたように思います。また、講師である宮川氏の「子どもの自己肯定感は、自己有用感を高めるところから」というお話が印象的でした。子どもたちが、令和という時代を豊かに生きるために、何が必要かを考えてこれからも研鑽を積んでいきたいと思います。

養護教諭

養護教諭の資質向上と健康教育の推進

令和五年度　養護教諭部会夏季研修会
期　日　八月七日（月）
場　所　蒲郡市民会館
参加者　四百六十四名
講演会　「がん教育の効果的な指導方法
　―ヘルスプロモーションに基づいた養護教諭の役割について考える―」
講　師　日本女子体育大学
　教授　助友　裕子　先生

実践発表では、岡崎市養護教諭部会が、「がん教育の推進と養護教諭の役割～がんについて正しく理解し、健康と命の大切さについて主体的に考える子どもの育成～」をテーマに口頭発表しました。研修部・情報収集部・授業研究部・データ分析部に分かれて研究を進め、作成した指導案等は市内のサーバーに保管し、市内教職員がいつでも閲覧可能とすることで、多くの養護教諭が積極的にがん教育に取り組んだ実践が紹介されました。

田原市養護教諭部会は、「養護教諭の指導力・マネジメント力の向上をめざして―『養護教諭のための保健教育力アップ表』を活用した授業実践を通して―」と題し紙上発表をしました。経験年数に関わらず保健教育に取り組めるよう、視点を明確にすることや、学び合える環境を整えるという実践は、どの地区にとっても参考になる内容でした。

調査研究委員は、養護教諭が取り組むがん教育の在り方について、六年間の研究で積み上げてきたことをもとに作成した、がん教育教材リスト案やがん教育実施計画案について発表しました。調査研究は、今年度をもって終了します。しかし、三教研公式ウェブサイトを活用し、教材リスト案等の作成した資料のデータを共有することで、三河の養護教諭がこれからの健康教育につなげていきます。

常任講師の愛知教育大学准教授の山田浩平先生からは、実践発表と調査研究について、指導講評をいただきました。

講演会では、助友裕子先生から、現代におけるがん教育の大切さや配慮事項、学びの深いがん教育にするための工夫等を学びました。養護教諭としての役割も具体的に教えていただき、充実した研修会となりました。

講演される助友裕子先生

学校図書館

未来への学びをつなぐ学校図書館
～本のある暮らしとICTの活用を通して～

第四十一回東海地区
学校図書館研究大会（愛知大会）
第六十回愛知県学校図書館研究大会
期　日　八月八日（火）・九日（水）
場　所
　八日　愛知県産業労働センター
　九日　愛知大学名古屋キャンパス
全体会（八日）
講演会「読むこと、書くことの喜び」
講　師　作家　辻村　深月　氏
分科会（九日）午前の部・午後の部
・研究発表
　小学校・中学校・高等学校
・ワークショップ
①「読書へのアニマシオン」で、本が読める子どもを育てよう
　鈴木　淑博　氏
②世の中のコミュニケーションや知識共有、人々のつながりを活性化させる知的書評合戦「ビブリオバトル」
　青木　智宏　氏
③誰でも書けるって本当に？
～ショートショートの書き方講座と、そのすすめ～
　田丸　雅智　氏
④佃式執筆法
「戯曲の書き方について」
　佃　典彦　氏

・図書館見学
愛知大学名古屋図書館のあゆみ

八月八日、九日の二日間に渡って、学校図書館研究大会が行われました。一日目の講演会では、『ツナグ』や『かがみの孤城』で知られる作家の辻村深月氏をお迎えしました。「読むこと、書くことの喜び」という演題で、人生を変えた読書体験や創作の裏側について、作家ならではの視点からお話しいただきました。参加者からは、「多角的な視点からお話しいただき、たいへん魅力的な講演でした。」との声が寄せられました。

二日目は、午前・午後の二部制で分科会が行われました。研究発表では、研究テーマ「未来への学びをつなぐ学校図書館」に基づいて、小・中・高の先生方から、実践を踏まえた趣向を凝らした提案がなされました。

また、ワークショップでは、ショートショートの書き方、アニマシオンやビブリオバトルの方法などの実践的な技能を学び、参加者から「今後の教育活動に役立てたい。」との感想をいただきました。

ワークショップ（アニマシオン）の様子

今後の研究大会・研修会等のご案内

音楽

音楽はともだち
～感性を育み、音楽的な見方・考え方を広げる学び合い～

令和五年度　愛知県小中学校
音楽教育研究大会　田原大会
期　日　十一月一日（水）
場　所
公開授業　田原市立田原中部小学校
田原市立田原中学校
全体会　田原文化会館文化ホール
参加者　三百名（予定）
公開授業内容
○小学一年生
「がっきとなかよくなろう」
藤雄　千春　先生
○小学五年生
「和音の移り変わりを感じとろう」
川口　久美子　先生
○中学三年生
「鑑賞曲『ボレロ』（ラヴェル作曲）」
花井　理紗　先生
研究演奏
○田原市立亀山小学校
全校合奏「四季のうた」（水口　透　編曲）
指揮　森下まどか　先生
記念演奏
○声楽家　山内　房子　氏
○指導講評
元豊橋市立玉川小学校長
元音楽教育推進協議会東海北陸支部
副支部長　尾﨑　弘明　氏

本年度は、十一月に田原市で、愛知県小中学校音楽教育研究大会を開催する予定です。田原市内の先生方に、授業の提案をしていただきます。

藤雄千春先生は、「がっきとなかよくなろう」を題材に、打楽器の音色と演奏の仕方との関わりに気づかせ、表現の工夫に生かすことができるように、自分のお気に入りの音を歌と合わせて表現する授業を発表されます。

川口久美子先生は、「和音の移り変わりを感じとろう」を題材に、和音の移り変わりを感じとるために、聴き比べや、友達との協働学習を通して、旋律に合った副旋律を考える授業を発表されます。

花井理紗先生は、「鑑賞曲『ボレロ』」を題材に、曲のよさや美しさを味わうために、曲想と曲の構造との関わりや、曲の特徴と他の芸術との関わりを理解し、構成・リズム・強弱・形式などの根拠について批評し合い、感性を広げていく授業を発表されます。

全体会では、田原市出身の山内房子氏をお招きし、教科書に掲載されている曲の解釈を交えながら歌っていただく予定です。

本年度は、県大会を三河地区が担当し、四年ぶりに授業公開をします。多くの先生方にご参加いただき、『はじめに子どもありき』を大切にする三河の教育、授業づくりについて、共に語り合うことができれば幸いです。皆様のご参加をお待ちしています。

その他研究大会・研修会等

愛知県生徒指導研究大会	10／5	知多
愛知県英語教育研究大会	10／20	豊川
愛知県へき地・複式・小規模学校教育研究大会	10／20	西尾 豊田
愛知県小中学校音楽教育研究大会	11／1	田原
全小道研中部地区小学校道徳教育研究会	11／10	安城
愛知県学校視聴覚教育研究大会	11／17	豊田
愛知県統計教育研究発表会・講演会	11／17	名古屋
愛知県書写書道教育研究協議会	11／28	未定
授業力養成講座Ⅱ（東三河・小学校）	10／6	豊川
授業力養成講座Ⅱ（東三河・中学校）	10／13	豊川
授業力養成講座Ⅱ（西三河・中学校）	10／20	安城
授業力養成講座Ⅱ（西三河・小学校）	11／16	知立
授業力養成講座Ⅱ（西三河・小学校）	11／21	安城

三教研公式ウェブサイトのご案内

◆三教研公式ウェブサイトに関してのご意見を事務局までお寄せください。

三河教育研究会
公式ウェブサイト

編集後記

記録的な猛暑に加え、お盆は台風の影響を受けた夏。しかし、マスクを外して、お互いの顔をしっかりと見合えるようになった夏でもありました。

今夏も十七の研究会・研修大会が、後半には、授業力養成講座Ⅰが東西三河で盛大に開催され、どの会場も、来たる二学期に向けて、子どもたちのために、「早速実践してみたい」「さらなる授業力の向上を目指したい」という意欲と熱意をもった多くの先生方が集い、熱心な協議が繰り広げられました。今後の教育実践の実りをより豊かにする礎となったことを参加された先生方の表情からも確信することができました。

ご多用の中、原稿をお寄せいただいた皆様に感謝申し上げます。

表紙の写真

「国道23号線バイパス工事見学
開通に向かって歩く」
撮影　蒲郡市立蒲郡北部小学校
若林　和也　先生